

第33回日本生命倫理学会年次大会
一般演題および公募セッション募集（2020年4月19日）

大会長 樽井 正義（慶應義塾大学）

1. 演題募集

生命倫理学および関連分野に関するあらゆる演題を募集いたします。

2. 演題募集期間

2020年4月19日（月）～6月13日（日）

申し込み後の修正・削除は一切受け付けませんのでご注意ください。

3. 応募資格

一般演題（口演・ポスター）の筆頭発表者および公募セッション（シンポジウム・ワークショップ）の座長・オーガナイザーは、日本生命倫理学会の会員または入会手続き中の方に限ります。入会方法は、学会ホームページでご案内しています。

公募セッション（シンポジウム・ワークショップ）に関しては、申請者である座長・オーガナイザー以外の登壇者は必ずしも会員である必要はありません。

※ 公募セッション（シンポジウム・ワークショップ）の報告者となられる非会員の方については、大会参加費は徴収いたしません。

4. 大会ホームページにおける抄録集の公開

今年度の大会では、大会ホームページ内で抄録集を閲覧できるようにします。閲覧できる人の範囲は、大会参加申し込みをした人に限定されます。何卒ご了承ください。

5. 新型コロナウイルスへの対応

今年度の大会は、新型コロナウイルスの影響により、オンライン開催になる可能性もあります。最終的な開催形態は、遅くとも9月初旬の大会参加申し込み受付前までにお知らせするようにいたします。

6. 登壇回数の制限

理事会決定に基づき、前回の大会より、一般演題（口演）、公募シンポジウム、公募ワークショップのそれぞれのカテゴリーにおいて、同じ発表者が2回以上登壇できなくなりました。ただし、以下の点にご注意ください。

※ 制限の対象となるのは登壇者（実際にマイクを持ってプレゼンする人）です。そのため、座長・オーガナイザーも登壇回数に数えられますが、氏名を連ねるだけの共同発表者は対象外となります。

- ※ 制限は一般演題（口演）、公募シンポジウム、公募ワークショップのみを対象にしているため、学会企画・大会企画シンポジウム、ポスター発表は対象外です。
- ※ 学会企画や大会企画シンポジウムも含め 1 大会の合計がポスター発表を除き 4 登壇以内であれば、同じカテゴリーで 2 回以上の登壇も認められます。

【具体例】

- ① （登壇回数 5 回）学会企画シンポジウム 1 回、大会シンポジウム 1 回、一般演題（口演） 1 回、シンポジウム登壇 1 回、WS 登壇 1 回。
 - ⇒ 制限の対象となっているカテゴリーにおいて 2 回以上になっていないので認められる。
- ② （登壇回数 5 回）学会企画シンポジウム 1 回、大会シンポジウム 1 回、一般演題（口演） 0 回、シンポジウム登壇 2 回、WS 登壇 1 回。
 - ⇒ 学会企画シンポジウムを含めると計 4 登壇以内ではなく、制限の対象となっているカテゴリーの公募シンポジウムにおいて 2 回以上になっているため、登壇回数は①のケースと同じであっても認められない。
- ③ （登壇回数 4 回）学会企画 0 回、大会企画 0 回、シンポジウム登壇 2 回、WS 登壇 2 回。
 - ⇒ 学会企画や大会企画シンポジウムも含め、全体の登壇回数が 4 回以内であるため、同じカテゴリーにおいて 2 回発表することも認められる。

7. 発表形式

一般演題（口演・ポスター）、公募セッション（シンポジウム・ワークショップ）を募集します。

■一般演題

- ・ 口演：発表 10 分＋質疑応答 10 分
 - 口演で応募された場合でも、状況によりポスター発表とさせていただくことがあります。
- ・ ポスター：発表 5 分＋質疑応答 5 分
 - ポスターのパネルサイズ（縦 118.9cm×横 84cm）A0 サイズ相当。

（応募フォーム記入例）

一般演題 口演・ポスター	希望カテゴリー：A.生命倫理の基本概念	第 会場
演 題 名	〇〇▲▲問題と生命倫理	
氏 名 (所 属)	共同演者（※全員学会員であること）を含む 慶應太郎 （三田大学文学研究科） 日吉次郎 （三田大学生命倫理学研究科）	
専門分野	生命倫理学	
キーワード	（5 つまで）生命倫理 道徳的ジレンマ 社会	
発表形式	口演（一般演題） / ポスター / どちらでも良い（希望以外を消して下さい）	
発表方法	PC およびプロジェクターを使用する	
倫理審査	倫理審査委員会の名称：	

承認番号：

<「若手優秀賞（口演、ポスター）について」>

※ 「若手優秀口演賞」及び「若手優秀ポスター賞」は、本学会の若手会員による優れた研究報告を表彰することにより、若手会員の学会参加を促進し、また今後の研究活動の発展を支援・奨励するために創設されました。一般演題（口演及びポスター、オンライン開催の場合には両者の区別をしません）について、若手会員の当日の発表を審査基準に則って審査し、受賞者を決定します。対象は、以下の応募資格に該当し、審査対象になることを希望される方とします。対象演題が多数となった場合には、事前審査を実施し、候補演題を選考する場合があります。若手優秀口演賞の候補となった演題は、希望カテゴリー以外のセッションでの発表となる予定です。受賞者は大会期間中に発表いたします。ぜひ、ふるってご応募ください。応募される方は、応募フォームの該当する欄を選択してください。（研究開発委員会委員長 武藤香織）

応募資格

1. 原則として、筆頭発表者が40歳未満の方（2022年3月31日時点）とします。
2. 筆頭発表者が40歳以上で、以下のいずれかにあてはまる場合には、これを証明もしくは事情を説明する文書を提出することにより、応募可能とします。これらの文書は、2021年6月13日までに（当日消印有効）、日本生命倫理学会事務局宛（〒112-0012 東京都文京区大塚 5-7-11-612）に郵送してください。
 - a. 年次大会期間中に大学院修士課程・博士課程在学中の方
⇒ 学生証または在学に関する証明書の複写を郵送してください
 - b. 2022年3月31日時点で博士号を取得して3年以内の方
⇒ 学位記または学位取得に関する証明書の複写を郵送してください
 - c. 2019年4月1日以降に、初めて博士研究員・助教（任期つきを含む）の職を得た方
⇒ 職歴を記載した文書（自由書式で400字以内）と、証明できるものがある場合はその複写を郵送してください
 - d. 育児・介護・病気療養などで1年以上の研究中断があり、演題募集締切日までに復帰している方
⇒ ご事情を記載した文書（自由書式で800字以内）と、証明できるものがある場合はその複写を郵送してください

<「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の遵守について>

※ 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（文部科学省・厚生労働省）、「臨床研究法」（厚生労働省）の対象となる研究については、同指針を遵守し、審査を行った倫理審査委員会の名称と、与えられた承認番号を抄録に記載してください。

※ 同指針の対象外であっても、人を対象とした調査研究に関する発表の場合は、下記のいずれかを抄録に記載してください。

- (倫理審査委員会による審査が行われた場合) 審査を行った倫理審査委員会の名称と、与えられた承認番号を抄録に記載。
- (倫理審査委員会による審査が行われなかった場合) 研究対象者に対する事前の説明と同意(研究協力及び結果の公表を含む)が適切に実施されたことを抄録の本文中に記載。

※ なお、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」では、研究対象者への侵襲や負担に関する考え方や匿名のアンケートやインタビュー調査などでのインフォームド・コンセントのありかたが示されており、同指針の対象外となる研究を実施する際にも、参考にしてください。

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_17544.html

※ また、演題応募の段階で応募者自身が「指針に該当しない」と判断した場合であっても、査読の結果、実行委員会が「指針に該当する」と判断した場合には、その旨を応募者に通知し、抄録の記載を修正していただくこともあります。

<COI（利益相反）の開示について>

※ 各発表者における COI（利益相反）については、演題発表に関連して開示すべき利益相反がある場合のみ、「COI 開示に関するスライド」をダウンロードし、口頭発表においてはパワーポイントの冒頭に、ポスター発表においても冒頭に掲示してください。

※ 開示すべき利益相反がない場合は、何もする必要はありません。

※ なお、COI（利益相反）の詳細に関しては、以下 URL にアクセスし、日本医学会「医学研究の COI マネジメントに関するガイドライン」をご参照ください。

http://jams.med.or.jp/guideline/coi-management_2015.pdf

<二重投稿について>

※ 発表内容に関しては原則として、未発表のものとしします。

<希望カテゴリー>

- A. 生命倫理の基本概念
- B. 研究倫理、産学連携
- C. 先端医療技術、医療化
- D. 医療経済、資源配分、公共政策
- E. 臨床倫理、看護倫理
- F. 生殖医療、産育、家族
- G. ケア、介護、福祉
- H. 終末期医療

- I. 宗教、思想、文化
- J. 環境・自然保護、大規模災害
- K. 医療安全、医薬品評価
- L. 生命倫理教育
- M. その他

*カテゴリーは変更される場合があります。

■公募セッション

90分のセッションを公募します。第33回年次大会では、「生命倫理学の転換期」をテーマとしています。応募多数の場合には、採否において大会テーマにより関連性のあると考えられるものを優先して採択する方針です。ご希望にそえない可能性もありますので、ご了承ください。

公募シンポジウム

- 90分（報告時間はオーガナイザーの趣旨説明や登壇者間のパネルディスカッションを含めて60分以内）
- 収容人数 50～100名程度
- 採否決定後、各報告者の発表要旨を提出していただきます。

（応募フォーム記入例）

	公募シンポジウム	会場
タイトル	○○▲▲問題と生命倫理	
氏名（所属）	オーガナイザー：福沢自尊（鉄砲洲大学文学研究科） 5分 シンポジスト： 1 矢上三郎（港北大学生命倫理学研究科） 20分 2 藤沢四郎（遠藤大学倫理学研究科） 20分	
※報告時間もご記入ください	3 () 分 4 () 分 パネルディスカッション（ない場合は「0分」として下さい） 15分 ※オーガナイザー・シンポジストの報告とパネルディスカッションで計60分以内	
キーワード	（5つまで） 生命倫理 道徳的ジレンマ 社会	
発表方法	PCおよびプロジェクターを使用しない	
倫理審査	倫理審査委員会の名称： 承認番号：	

ワークショップ

- 90分（報告時間45分以内、フロアを交えたディスカッション45分以上）
- 収容人数 50人～100名程度
- ワークショップの各報告者の発表要旨は不要です。

(応募フォーム記入例)

	公募ワークショップ	会場
タイトル	〇〇▲▲問題と生命倫理	
氏名(所属)	オーガナイザー 慶應太郎 (三田大学倫理学研究科)	10分
※報告時間もご記入下さい	報告者： 1 日吉次郎 (三田大学生命倫理学研究科) 10分 2 矢上三郎 (港北大学倫理学研究科) 10分 3 藤沢四郎 (遠藤大学文学研究科) 分 4 () 分 パネルディスカッション (ない場合は「0分」として下さい) 0分 ※オーガナイザー・報告者の報告とパネルディスカッションで計45分以内	
キーワード	(5つまで) 例：end of life、家族、社会、生命倫理、	
発表方法	PCおよびプロジェクターを 使用する	
倫理審査	倫理審査委員会の名称： 承認番号：	

8. 応募方法

① 応募フォーム(申込書)を以下のURLからダウンロードしてください。

01 一般演題(口演・ポスター)申込書

<https://drive.google.com/file/d/1P6dMAEVZcpvMBH1d5V6KAIZ8-oN0FE2H/view?usp=sharing>

02 公募シンポジウム申込書

https://drive.google.com/file/d/1aJI0TSjjcAthLBwIdNwHRtobpm_oATk/view?usp=sharing

03 公募ワークショップ申込書

<https://drive.google.com/file/d/1Xy2qCurZU4ny76v2mVQ1HuKUfblUONsx/view?usp=sharing>

② もれなくご記入のうえ、年次大会事務局までメール添付でお送りください。

第33回年次大会事務局メールアドレス：jab-conference@ja-bioethics.jp

③ 締め切りは2021年6月13日(日)です。締め切り厳守でお願いします。

④ 抄録のレイアウトは実行委員会で行い、応募者による校正は行いませんのでご了承ください。

9. 応募の確認・採否の通知

演題の応募受付後に、大会事務局から確認のメールが届きます。確認メールがもし届かない場合には、大会事務局までご一報ください。

応募フォームに記された「発表要旨/概要」を年次大会実行委員会で検討させていただき、7月頃に採否の連絡をいたします。

10. お問い合わせ先

第33回日本生命倫理学会年次大会事務局

慶應義塾大学文学部人文社会学科哲学系倫理学専攻 奈良雅俊研究室内

〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

Email : jab-conference@ja-bioethics.jp

11. ホームページ

第33回日本生命倫理学会年次大会ホームページ

<https://ja-bioethics.jp/conference/top33/>

12. 今後のスケジュール

4月19日 一般演題（口演・ポスター）、公募シンポジウム、公募ワークショップの演題募集

6月13日 応募締め切り

7月 採否決定通知

11月 予稿集 HP 公開

13. 第33回日本生命倫理学会年次大会実行委員(敬称略)

樽井正義（慶應義塾大学） 奈良雅俊（慶應義塾大学） 伊吹友秀（東京理科大学） 児玉聡（京都大学） 瀧本禎之（東京大学） 田代志門（東北大学） 宮脇美保子（慶應義塾大学） 前田正一（慶應義塾大学） 美馬達哉（学会企画委員長、立命館大学） 河原直人（学会情報委員長、九州大学病院） 田中智彦（学会事務局長、東洋英和女学院大学）

2021年4月19日現在